

「第1回アジア・太平洋水サミット」が2007年12月3日(月)、4日(火)の2日間にわたり大分県別府市で開催される。

2003年に京都で開催された第3回世界水フォーラムにくらべ知名度は今ひとつだが、重要度は変わらない。日本の繁栄には、アジア・太平洋諸国の経済基盤の発展と水問題の解決が不可欠だし、何より隣人として、水の先進国としての責任もある。

しかし、一口にアジア・太平洋といっても、なんと広大な地域だろう。オセアニア・パシフィック、北東アジア、東南アジア、東アジア、中央アジアにまで及ぶ47カ国2地域に、世界人口の6割にあたる39億人の人々が生活している。

この地域で安全な飲料水を利用できない人が7億人、下水道など基本的な衛生設備を利用できない人が19

億人もいる。安全な飲料水を得られない地域では、子供を中心に水因性疾患で毎

日多くの生命が失われている。さらに洪水や津波、高潮などの水災害による死者の数は年平均で6万人にも及ぶ。これは世界の水関連災害で死者の80%にあたる数だ。アジア・太平洋地域は、水災害の被害を最も受けやすい地域でもある。

各界あげて取り組みを

ら、地域内の水に関わる共通の課題や知識、経験を共有し水問題を解決することに努める。

日本でのサミットでは、それぞれの地域で培われてきた英知を結集し、解決の糸口を見出さなければならぬ。水先進国としての日本への期待も大きい。

解決への糸口といえば、2006年3月にメキシコで開催された第4回世界水フォーラムでの皇太子殿下の

一方、この地域は人口激増地域でもあり、2050年の人口は50〜60億人に膨れあがるとの予測もある。今後の人口増に対応するには農業用水も含め、水を効率的、公平に利用することが不可欠だ

アジア・太平洋水フォーラム設立の目的は、この地域に住む人々が、それぞれ

の歴史と個性を尊重しながら

ための水」を掲げたのも、水と動植物と良好な関係を築いてきた、この地域の文化を反映した結果だ。

サミットは、首脳をはじめとする各分野のリーダーによる会議が中心だが、関係機関やNPO、市民団体によるシンポジウムやイベントも重要だ。水問題の解決へ向け、それぞれの分野の人々が、それぞれの視点から提案し、社会にアピールしていくことが求められる。

開催地である大分県は、アジア・太平洋地域との交流拠点であるだけでなく、「立命館アジア太平洋大学」を通じて若者レベルでの交流を積極的に進めている。県内各地には日本の原風景とも言っべき棚田が広がる。水と人を語るにふさわしい場といえよう。

第1回アジア・太平洋水フォーラムを成功に導くために、各界あげての積極的な取り組みと、ブログ上での活発な議論にも期待したい。

「水と環境の未来」をキャッチフレーズとする本紙としても、専門紙としての役割を果たしていきたい。

別府水サミット